

編 集 後 記

本号では第54回日本消化器外科学会総会（会長：船曳孝彦教授 藤田保健衛生大学）におけるシンポジウムの演題の中から編集委員会から依頼させて頂いた10編を総会特集として掲載しました。大腸癌の肝転移高危険群の抽出，発育進展および転移における VEGF の意義，骨盤腔内洗浄液の RT-PCR 解析による直腸癌進行度評価，胃癌の腫膜播腫性転移能に影響する因子の分子生物学的検討，食道癌転移に関与する新しい分子標的クローニング，肝癌における転移能と免疫学的回避機構，原発性および転移性肝癌に対する遺伝子治療，膵癌肝転移能に関与する分子生物学的因子の解析，膵癌の浸潤転移機構の解析，膵癌における MMP 阻害剤の発癌抑制効果について興味あるデータをお示し頂き感謝致しております。

加えまして原著 7 編，症例報告 10 編，臨床経験 1 編で合計 28 編を掲載しました。消化器外科の編集委員会は毎月 18 人（理事・編集委員長・委員・幹事）が約 3 時間かけて一編ずつ熱心な討議を重ねて，詳細かつ厳しく，場合により厳し過ぎるかと思われる査読がされております。しかし，18 人の編集委員会は多いメンバーでありますので殆どの領域をカバーできているとはいえ，消化器外科全体の領域はかなり広い為必ずしも得意領域でない論文の査読に当たることがある。そんな場合には，評議員の先生方の専門領域をコンピューターに入れておいて最も適当な査読者を見つけて査読をお願いする方法も良いのではないかと考えています。

いずれにしても日本消化器外科学会誌は編集委員長の佐治重豊先生の暖い心を中心に編集委員の先生方の敬服に値する努力と幹事の先生の細かい点に至る最終作業に加えて事務局の方々の多大なる労力の結集により一冊の学会誌が出来ていますので，どうか大切にこの学会誌を御活用して頂きます様お願い致しますと共に我々編集委員一同は益々質の高い邦文誌となる様努力を重ねたいと思っております。

（山岸久一）